

謀略的組織破壊 攻撃を許さず

労働「本部」革マル＝土屋一派解体

日 動 労 千 葉

85. 4. 9

No. 1911

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

85春闘を中心とする当面の取り組み

動労千葉は、3月30～31日に第6回支部代表者会議を開催し「3・24三里塚」の5割動員を
実現した取り組みの成果を確認すると同時に、いよいよ本格的に開始されようとしている首切
り「三本柱」―「過員活用」攻撃、そして当局、動労「本部」革マル一体となった謀略的組織
破壊攻撃を粉碎する闘いを、85春闘と結合させて闘いぬく方針を決定した。これに踏まえ、
4月2日の第13回執行委員会は、当面する取り組みについて大要次のように確認した。

万全の組織体制うち固め、 攻撃激化をはね返そう

国鉄本社内の分割・民営派と分割反対派の対立
をはらんだ人事異動は、一方で職場実態を無視し
た強硬路線を強めており、「60・3」移行による
労働強化と「過員対策」等で重圧をうけている生
産点とのあつれきは、非和解的階級対立としてよ
り一層激化している。

分割・民営化について、労使ともに展望を出し
えない状況と、動労「本部」革マルの策動等、当
局は「職場規律」を口実にあらゆるしめつけを強
化し、「業務命令」発動への衝動を強めており、
当面、85春闘、「過員対策」を中心にせめぎあい
となることは必至である。

われわれは、津田沼を焦点化した謀略的組織破
壊攻撃や、寮、学園等を焦点化した当局の強硬姿
勢をみると、謀略・挑発等をもって「業務命令」
等の強権が発動される事態を想定し、これを軽視
してはならない。

ポイントは、われわれが泥沼を恐れず闘う決意
を組織の末端まで打ち固めることである。

謀略的組織破壊攻撃を許さず、 「本部」革マル＝土屋一派解体を

2月28日、中野駅で国労津田沼組合員と動労中
野の組合員が「カーテン」問題で口論となり、動
労「本部」革マルのデッチあげタレコミで本社が
津田沼電車の監査を行い、国労組合員に処分の
恫喝と「カーテン3枚上げ」を強要してきた。

3月17日、国労の古いビラが津田沼構内の留置
電車4本に貼られ、幕張電車区庁舎にも同様のビ
ラが貼られた。

3月26日、津田沼電車区構内の留置車両の広告
用紙が放火され、西船橋駅留置車の三管コックが
閉められていた。

このように、津田沼を焦点に謀略的組織破壊攻
撃が激化している。これらの事態は、①動労千葉
の「60・3」「3・24」をはじめとする闘いの高

揚・勝利的展開に対する報復＝組織破壊、②権力
の介入を誘導し、混乱を誘発しようとする攻撃、
③権力・当局の攻撃の先兵としてたち現われてい
る動労「本部」革マル等、あらゆる側面から敵し
くみつめなければならない。

われわれは、当面権力の介入を誘導せんとする
挑発にのらず、当局と動労「本部」革マル一体と
なった謀略攻撃に対決する日常的反撃体制を確立
し、あらゆる手段をつくして反撃し、動労「本部」
革マル・千葉「地本」土屋一派解体・一掃の闘い
を強化する。

不屈の職場闘争創造に向けた取り組み

「60・3」における非協力・順法行動の質的強
化を中心に、80年代後半に通用する職場抵抗闘争
の創造へ向けた取り組みの強化は急務であり、当面
① 「60・3」移行に伴う具体的問題点を調査し
改善要求を行う。

② 動乗勤改善協定を労働者的に習熟するための
教育活動、学習会を開催する。

③ 組織・教宣、交渉部長会議を早急に開催する。

④ 85春闘等の取り組みにあわせた職場討議の深化。
等を中心に取り組みを強化する。

85春闘の取り組み、 ワッペン闘争について

85春闘については、総評、県労連、春闘共闘等
の行動を取り組み、団交を強化し、公労委の活用
も含めた準備体制の万全を期し、4月17日の官民
統一行動日を中心に、ストライキを含むあらゆる
闘いを配置し、要求獲得を目指すこととし、具体
的戦術等については、執行委員会で決定し、支部
代を開催して全体化を図る。

4月16日、17時30分より津田沼電車区構内で、
「85春闘勝利・謀略的組織破壊攻撃粉碎・首切り
『三本柱』粉碎―『過員対策』強行阻止、動労千
葉総決起集会」を開催する。

ワッペン闘争については、4月3日より一旦中
止し、4月10日以降新たなスローガンで実施する。